

---

# ヤッテクル

紫吹 零

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
ヤツテクル

【コード】  
N6610U

【作者名】  
紫吹 零

【あらすじ】  
鬼が来る

## （前書き）

ホラーですが、ホラーじゃないかもしれないかもしれません。  
短編ですので、それでもいい方は、どうぞ読んでください。



「……まあ、いつか。行くぜ」  
ニヤリと笑って答えた新稲と一緒に、私たちはそのまま佐島神社に向かった。

夏真つ盛りだからか、蝉の声が凄くうるさい。だけど、佐島神社の周りは怖いくらい静かで涼しかった。

「いいな、ここ。涼しくて」

「本当っ。美奈子ちゃんの言った通りね」

「でしょ」

一番親しい由紀ゆきの乃にそう言われて、私は胸を張った。他の子も、口ぐちに私を誉める。だからか、私は有頂天になっていた。

「で、何して遊ぶんだよ」

そう新稲が言えば、皆が私を見た。そう、遊びを考えるのは私の役目だ。私が一番、面白い遊びを思い付くから。

私は用意しておいたトランプを出す。そして人数を数えた。……

十四人。

「何するの？」

美幸ちゃんが私の手元を覗く。私は笑顔で説明を始めた。

「鬼ごっこの原理なんだけど、まずね、このトランプを一枚ずつ配るんだ。で、全部スペードのカーなの。だけど、一枚だけジョーカーが入ってるんだ。で、そのジョーカーに当たった人が鬼。そしてスペードのカードを持っていてる子を捕まえるの。でね、スペードのカードの中のクイーン。これは重要ね。ジョーカーはこのカードを持っていてる人を、最後に捕まえることは出来ないの。でも、鬼は誰がどのカードを持っているか知らないから、慎重に事を図る必要があるの。スペードのクイーンを持っている人を捕まえたらゲーム終了。だけど最後までスペードのクイーンが残ったら、スペード組の勝ち。範囲は神社の敷地内。どう？」

否定する人はいない。よし。

私はカードを配った。でも見ようとするとする人には嚴重に注意した。

「まだ見ちゃダメ。始まってから。鬼も最初は隠れるか逃げるかしてね。どっちにしる、一分は数えてからスタート」

「なあ、美奈子」

「なあに？」

新稲が私に尋ねる。

「このゲームの名前は？」

「うーん、とねえ」

私は少し考えた。そして、閃いた。

「子ネズミ鬼(ごつこ)」

私たちは十五歳。全員、ネズミ年生まれだ。

「いいじゃん」

新稲がニヤリと笑った。

「ゲーム、スタートっ！！！」

ゲームが始まった。

私は走りながらカードを確かめる。なんと、クイーンだ。スペードのクイーン。

わくわくするなあ。

そう思って走っていたら、私は何かにつまずいて転んだ。顔から、勢いよく。

「っ痛！」

思いつきり打った顔をさすりながら、私は足元を確認した。なんか縄がある。それにつまずいたらしい。そして私がつまずいた拍子に切れてしまった。

「……何、コレ？」

しかし私は、すぐに立ちあがって駆けだした。

ふと、何か聞こえたような気がして立ち止った。耳を澄ますと、ちよつどその時叫び声が聞こえた。美幸ちゃんの声。鬼に捕まっただけみたい。

すると、私の前の藪から新稲が現れた。なぜか顔面蒼白にしながら。

「どうしたの？」

私が聞くと、新稲は無言で私の腕を掴んで走った。

「ちよつ。新稲っ!？」

「美奈子。お前さつき人数数えたよな。何人いた？」

「え……？ 十四人だけど」

「おかしいぞ。お前が誘ったのは十三人のはずだ。

お前も含めてな。だって、綾香あやかは今日すぐに帰ったんだから」

私の顔から、血が音を立てて引いた。

「嘘……」

「嘘じゃねえ」

「じゃ、じゃあ……。一人、誰なの？」

「……さあな」

幽霊？ それとも地縛霊？

「美奈子。お前、なんのカード持ってる？」

「……クイーン」

「不味いな」

新稲の言いたいことは分かった。だって、そいつはルールを聞いていたんだ。なら、狙うのは

「安心しろ。お前が最後まで残ればお前の勝ちだ」

だから、と新稲は続けてようやく足を止めた。ここは佐島神社の



(後書き)

初短編投稿です。

最近暑いので、なんとなく書きたくなったので書きました。  
駄作、ですねえ。

他にも続きものを書いているので、そっちもよかったらよろしくお  
願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6610u/>

---

ヤツテクル

2011年7月7日03時37分発行